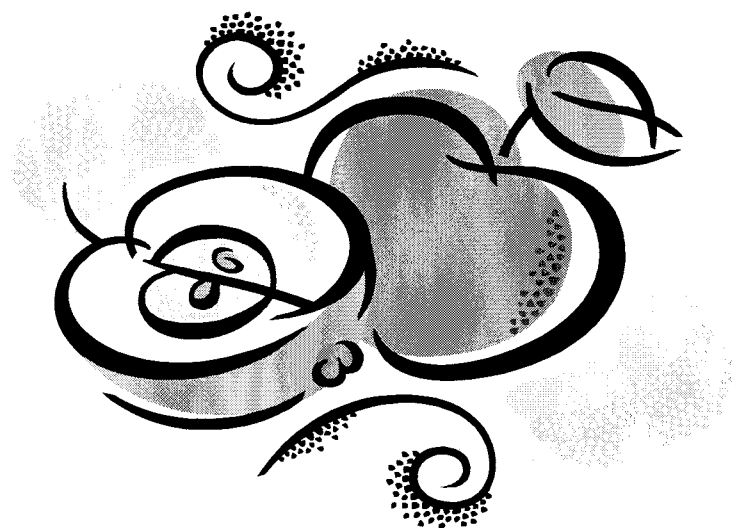




平成24年度事業紹介

市民活動助成事業・協働事業



松戸市

はじめに

「豊かで活力ある地域社会の実現」をめざして、市民及び市民活動団体、民間事業者と市による「協働のまちづくり」を推進しております。

その支援として、市民活動団体・民間事業者の活力を活かし、市と事業の企画から実施までを協力して行う「協働事業提案制度」と新たな市民活動の立ち上げや既存の活動を発展させる「市民活動助成制度」があります。

【市民活動助成制度】

新たな市民活動を立ち上げるため、又は、既存の活動をさらに発展させるための事業に要する一時的な資金を助成することで、市民活動の活性化を図り、豊かで活力ある地域社会の実現に貢献することを目的とします。

平成 24 年度は下記のとおり実施いたしました。

<目次>

◆平成 24 年度 市民活動助成事業

【市民活動助成事業】

「AED の正しい使用法を広めたい」 事業	1
五香、六実地区歴史案内と地域活性化事業	2
「紙敷石みやの森」 保全育成事業	3
健康な心を育む勇気づけの対応	4
園芸活動を基盤とした高齢者宅での 地域福祉活動及びマニュアル作成事業	5
成年後見制度の普及啓発と市民後見人の活用促進事業	6
ゆいの花音楽会事業	7
難聴者にやさしいまちをつくろう！ 事業	8
総合科学教室事業	9

【協働事業提案制度】

協働事業は、行政が市民活動団体・民間事業者のそれぞれの強みの部分を活かし、身近にある地域課題の解決に向けて、事業の企画から実施まで、協力して実施する公益性の高い取り組みです。

協働事業提案制度は、市民活動団体側が、市民の目線で取り組む課題（テーマ）を設定し、自らの活動を通して課題解決に向けた事業を提案するなど、協働事業の先進的モデルを創出するための制度です。平成 24 年度は下記のとおり実施いたしました。

＜目次＞

◆平成 24 年度 協働事業

【協働事業】

楽しい健康体操-Ⅲ事業	10
世代間交流の場・トキ塾 事業	11
パパ手帳を使った男性への育児支援事業	12
ゲット ユア ドリーム事業	13
昔のあそびとわらべうたⅡ事業	14
家庭用廃食油の回収による地域活性化事業	15

市民活動助成事業

「AED の正しい使い方を広めたい」 事業	団体名	デフィブリーるの会
-----------------------	-----	-----------

【事業内容】

平成24年度事業の取り組み

① AEDを知ってもらう活動

- ・地域新聞「命の教育」と題して6月8日号に掲載
- ・Let's 体験参加者へプレゼン 8名参加（対前年+6）
- ・献灯祭り展示とAEDのデモ 多数
- ・松戸市消費生活展展示、講演会 900名
- ・松戸市交際交流展展示とAEDのデモ 600名

② AEDの正しい使い方を広める活動

- ・「いぶきの広場」にて展示・体験会・実習 40名
- ・自衛隊祭り（元山）体験会 多数
- ・柿の木台小、北部小「家庭教育学級」体験会 62名
- ・ディサービス施設 講習会 8名
- ・キックボクシングジムにて講習会 15名
- ・稔台連合町会体験会 30名
- ・樋野口子供会学習会 40名
- ・医療機関にて講習会と体験会 70名
- ・松戸市見本市展示と公開フォーラム 多数
- ・松戸若葉リーダースクラブ講習会 20名

事業費	123,147 円
自己資金	47,547 円
助成金	75,600 円

2012 献灯まつりにて



平成24年度事業の成果

- ① 助成事業ポスターの「キャッチフレーズ」を「AED講習会出前します」として配布した。年度末に至り追加依頼を受け、6件実現した。
- ② 家庭教育学級講習会は新規に1件。公民館でカリキュラムとして位置づけて頂く必要がある。
- ③ 消費生活展、交際交流展への参加は新規。従来のやり方では考えらず、有意義であった。
- ④ Let's 体験の参加者が8名と増加。中学生、高校生のAEDに対する認識度の向上が感じられた。
- ⑤ 市民活動助成事業として当会の活動が位置づけ易くなった。
- ⑥ 市内医療機関でも前年講習会の体験が実際に生きたので、講習会が定例化された（明年も決定）。
- ⑦ しかしながら、松戸市のAEDの公的設置数は近隣市に比較して、まだ少ない。
ちなみに柏市対 84%、流山市対 63%、鎌ヶ谷市対 74%、野田市対 114%、市川市対 104%

【事業者紹介】

会の名称：「デフィブリーるの会」

※デフィブリーる=defibrillator (除細動器) 心臓に電気ショックを与える医療機器をもじった名称です。

発 足：平成16年11月1日

活 動：初期＝AEDの設置活動（当時市内での設置数 民間＝0 病院など＝十数か所）

現在＝市内救命ステーション登録数 374台に至ったのでAEDの啓蒙、使用体験の出前体験会を開催

《問合せ先》住所：270-0021 千葉県松戸市小金原4-34-18

電話：047-343-0808 FAX：047-348-3876

ホームページ：defibrill.web.fc.com/ ブログ：defibrill blog14.fc2.com/

五香・六実地区歴史案内と 地域活性化事業	団体名	香実会（こうみかい）
-------------------------	-----	------------

【事業内容】

平成24年度事業の取り組み

【五香・六実地区】の歴史案内と地域活性化事業を、
行っています。（元気なまちづくり）

事業費	99,444 円
自己資金	16,500 円
助成金	82,944 円

メインタイトル：活気あるまちづくりを
目指しています。

サブタイトル（三指針）

- 元気なまちづくり
- 心豊かなまちづくり
- 自慢できるまちづくり

発 信：名所旧跡、文化財を地域住民の
皆さんにお知らせし、さらに地域外の方々へ
発信致します。



（歴史再発見案内風景）

案内人：案内をA・B・Cの3コースに分け、日程を決めガイドを行います。

平成24年度事業の成果

ガイドマップ（A4サイズのパフレットカラー版三つ折り）を作成
ガイドブック（A4サイズ小冊子カラー版8ページ）を作成

講演会：演題「小金牧から五香六実に至る変遷」について

平成24年10月14日（日）六実市民センターにて実施

案 内：平成24年4月4日・18日・25日ABCコース案内実施

平成24年9月12日（水）Aコース案内実施

五香六実地区歴史再発見ウォーク&梨狩り実施（きもの美術館も見学）

清 掃：平成24年4月9日二重野馬除土手の清掃実施

【事業者紹介】

○地域住民の方々へ文化財のPRと、又その情報を地域内外へ発信を行っています。そして
この地域に見学、観光にお越し頂く事で、地域活性化に繋がります。

我々案内人はボランティア活動にて、その橋渡しを行っています。

○五香六実地区が好きで、歴史に興味ある人達の集まりです。是非ご参加下さい。

《問合せ先》 香実会（こうみかい）

〒270-2203 松戸市六高台3-117-1

電話・FAX 047-385-2719 岩本 昌人

「紙敷 石みやの森」保全育成事業	団体名	松戸里やま応援団 七喜の会
------------------	-----	---------------

【事業内容】

平成24年度事業の取り組み

★基本方針

多くの市民が「健康と癒しを感じられる」森として整備保全する。

★具体的活動

- ①定例活動の実施 毎月 第一火曜日 第二木曜日 第三土曜日
- ②基本方針に沿った森の保全整備
- ③森の植生調査観察、小動物や鳥の生態観察と保全
- ④森の循環再生のための枯れ死、折損倒壊木の伐採、下枝根笹処理
- ⑤「持ち出さない持ち込まない」を原則に伐採材のバイオネスト処理
- ⑥ゴミ投棄無断立入り禁止など標識設置による啓蒙と荒廃防止対策
- ⑦森外周路〔市道〕整備、竹垣設置による散歩道としての環境改善
- ⑧周辺施設、諸団体との連携を図り市民共有の森として散策会などを企画して広く森の存在を知らしめる
- ⑨まつど里やま応援団傘下及び緑保全の関連団体との連携による保全啓発、森保全技能と知識のレベルアップ講座への参加
- ⑩貴重な森保全のための広報活動、活動参加者の拡充活動

事業費	148,457 円
自己資金	48,457 円
助成金	100,000 円



平成24年度事業の成果

- ② 例活動実施 延べ回数 33回 延べ活動参加者 185名
- ② 森の整備率 24年度目標75% → 実績90%
- ③ 新規入会 2名
- ④ 年間を通して間伐、除草、枝葉処理作業。
- ⑤ 特に、懸案であつた電線、街路灯に接触した森入口のコナラを他会の応援を得て伐採処理。
その他、台風や降雪などで倒壊した樹木、枝葉の伐採、根笹刈りなどの作業実施。
- ⑥ 降雨により地表のバラスなどが流出し凸凹となった森外周路「市道」を昨年に続いて市道路維持課へ依頼し舗装実施。竹垣の整備など実施。〔保全活動以後多くの市民が行き交う貴重な緑の散歩道〕
- ⑦ 貴重な野馬除け土手、傾斜地など崩壊危険な箇所の重点整備。
- ⑧ 第1回オープンフォレスト in 松戸へ参加。一斉公開日27名、森めぐりツアー110名が来森。
第1回東松戸保育園園児40名、今春第2回29名が来森。ハンモック、クラフト等で楽しく交流。
- ⑨ 秋の散策会3名来森。荒天、登校日など反省あり。訪問者に活動参加申し出あり。3月2名が新加入。

【事業者紹介】

松戸里やま応援団七喜の会は、平成21年松戸市が主催する「まつど里やまボランティア入門講座」に参加した有志が松戸に残された貴重な樹林を大切に保全し次の世代へ残したい・・・との思いで結成し、森所有者の理解のもと整備保全を行っています。活動拠点の「紙敷石みやの森」には延宝4年〔1676〕建立の石祠や、50畝に及ぶ野馬除け土手の土塁があり300年を超える歴史を感じられます。森内にはスギ・クヌギ・シラカシ・ヤブツバキの他、松戸では珍しいヤマハンノキなど針葉樹、落葉常緑広葉樹があります。ノウサギが遊び、鳥の囀りが心と体を癒してくれます。3年間の活動でゴミ投棄の減少など環境改善が進みました。この森を市民の貴重な財産として、健康と癒しの空間としてこれからも大切に守っていきます。貴方も一緒に汗を流しませんか。

《問合せ先》七喜の会 副代表 山下 烈〔たけし〕

電話：090-5317-4178 メール：t-y44410@ka7.koalanet.ne.jp

健康な心を育む勇気づけの対応	団体名	松戸市男女共同参画推進グループ ファミリーサポート・勇気づけ
----------------	-----	-----------------------------------

【事業内容】

平成24年度事業の取り組み

- ・「勇気づけの親子関係実践セミナー」を毎月、平日2回、日曜日1回開催しました。

事業費	204,500円
自己資金	140,000円
助成金	64,500円

子ども時代に受けたところの傷はいつ表面化するかは予想出来ません。不登校、引きこもりと言ったように比較的若い時代に表れることもあれば、成人してからうつ病を始めとする精神疾患として形を呈することもあります。

「困難に出会っても乗り越えていける精神力」を育てるという目標を持った子どもへの対応が必要です。

- ・長期的観点に立つと健康なところを持った人の育成は、家庭の円満、協力的な地域の形成、市の財政、国の財政の負担軽減の一助にもなります。
- ・不登校、引きこもり、うつ病は「勇気づけの対応」という予防があることを行政、育児、教育に携わる方々にお伝えしたいです。

平成24年度事業の成果

- ① 29回のセミナーを行い、合計140名の参加者がありました。
- ②不登校の中・高生を持つ親の会 青空の会 でもこのセミナーを開催して下さり、「親子関係」が以前より良くなった、お子さんが親に話をするようになった、ご自身に変化があった等の報告を頂きました。平成25年度も継続してセミナーを開催して頂けることになりました。
- ③参加して下さいました方のご紹介で平成25年5月から「新松戸幼稚園」を会場にセミナーを開かせて頂けることになりました。
- ④精神病理予防としての役割も果たすこのセミナーの重要性を幼児、小学生の保護者の方々が受けて下さり、子どもが積極的になった、言われなくても親の期待以上に行動できる、と効果を報告がありました。
- ⑤中2の6月位から不登校だったお子さんのお母さんが実践された結果、中3の4月から登校し、平成25年4月に高校に進学しました。この方は「自分の子どもへの対応を変えたことが不登校の解決につながった。これからも実践を続けたい。」と話しました。

【事業者紹介】「松戸市男女共同参画推進グループ：ファミリーサポート・勇気づけ」は一人でも多くの方々のお役に立ちたいという気持ちで 様々なセミナーを行っております。お気軽にお問合わせ下さい。

《問合せ先》

松戸市男女共同参画推進グループ：ファミリーサポート・勇気づけ

代表：福田 育子

電話：047-701-7668

ホームページ：kosodatecafe.com

メール：kosodatecafe@gmail.com

市民活動助成事業

園芸活動を基盤とした高齢者宅での 地域福祉活動及びマニュアル作成事業	団体名	HGC (Human Green Coordinator)
---------------------------------------	-----	-------------------------------

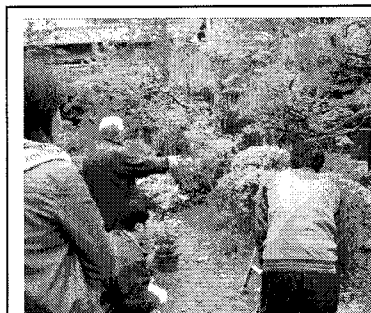
【事業内容】

平成24年度事業の取り組み

近年、高齢者が自宅の庭の管理をしたいができない状況や、高齢者が地域で孤立しているような現状がある。そこで私たちは、大学で学んだスキルを活かし、依頼主（高齢者）の希望に沿って、力を要する樹木の剪定や、腰に負担がかかる姿勢での苗の植え付けや除草作業、より落ち着ける庭の景観づくりを高齢者に代わって実施した。また、高齢者との交流の時間を持ち、植物の話題提供をきっかけに日常会話を通して、コミュニケーションを創出する場とし、松戸地区高齢者宅の新規開拓10件訪問・庭管理作業の提供、さらにこのうち活動の継続依頼をされる割合を50%目標とし、のべ25回の訪問を目指した。

また、一連の活動の『ニーズ把握⇒準備⇒管理作業⇒コミュニケーション⇒アフターケア』というプロセスを確認し、それに伴う学生側の知識的・物理的準備やリスクマネジメントに関するマニュアルを作っていくことで、より多くの学生が地域の高齢者のために活動しやすい体制を作ることを目的とした。

事業費	58,900円
自己資金	13,000円
助成金	45,900円



高齢者宅での
活動の様子

平成24年度事業の成果

松戸地区高齢者宅の新規開拓は7軒に留まったが、ほとんどのお宅において継続しており、訪問回数のはのべ30回を超えた。当初一回限りの依頼も多いと予想されたが、高齢による体調不良のため継続的な訪問を要望される方が多かった。また、植物を媒介にして学生と高齢者とのコミュニケーションが促進し、学生による訪問園芸活動が在宅高齢者のQOL向上に貢献できる活動の一つであると考えられた。

また今後の継続性を図るため、本事業の結果をふまえ、初めて活動実践する学生でもわかりやすいよう、活動記録シートの記載内容など、マニュアルを改訂した。

今後の課題として、想定以上の依頼があったため、現在の活動している学生だけでは対応できない状況が多々見受けられた。現在活動している学生が継続できる仕組みと、新しい学生を獲得していく仕組みが必要である。新しく参加した学生に対しては、今回改訂したマニュアルを有効活用し、活動しやすい組織環境・システムづくりに努める必要がある。

【事業者紹介】

- 千葉大学園芸学研究科・園芸学部の学生で構成している学生団体です。
- みどりを生かしたひととのコミュニケーションを促進するとともに、自らの専門分野の知識を深めることを目的としています。
- 環境教育、園芸療法などを通し、幅広い世代の方と交流しています。

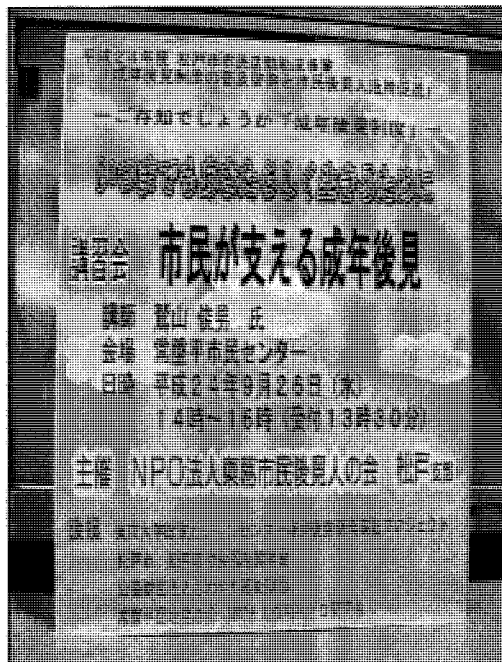
《問合せ先》

本田ともみ 〒271-8510 松戸市松戸648番地
千葉大学大学院 園芸学研究科 岩崎研究室
電話: 080-4818-4989 メール: vctomousagi@yahoo.co.jp

成年後見制度の普及と市民後見人の活用促進事業	団体名	NPO 法人 東葛市民後見人の会
------------------------	-----	---------------------

【事業内容】

平成24年度事業の取り組み



事業費	94,733 円
自己資金	14,833 円
助成金	79,900 円

- ① 超高齢化社会を迎え判断能力の衰えた認知症高齢者が増加している（全国：高齢者人口30百万人超、認知症高齢者3百万人 松戸市：高齢者人口104千人）
- ② 核家族化の進展で 老人世帯、独居老人世帯も増加 今後 生活面でのサポートを必要とする人がさらに増加する
- ③ 成年後見制度は認知症高齢者等を支える重要な制度であるが 社会的な認知度はまだまだ低い
- ④ 当会では公的施設での講習会、町会等の小規模施設での出前講座を開催し成年後見制度の理解をすすめる、市民後見人の活用促進を図る取り組みをした

平成24年度事業の成果

- ① 計画通り 2回の講習会 2回の出前講座を開催（講習会：新松戸市民センター及び常盤平市民センター 出前講座：新松戸七丁目及び新松戸四丁目）
- ② 何れも 募集定員を上回る参加者を得た 新松戸市民センター50名 常盤平市民センター53名 及び出前講座2回の計119名
- ③ 参加者から提出協力を得たアンケートでは 4回の講習会の内容について 評価は「良く理解できた」「まあまあ理解できた」の合計が74%～100%であった



【事業者紹介】 NPO 法人東葛市民後見人の会は

- ① ボランティア精神と社会貢献意欲を持った元気シニアや介護経験のある主婦などによる主体的・自発的な市民後見活動を行っています
- ② 「東京大学市民後見研究実証プロジェクトとの連携」、「行政などの公的関与」、「地域密着」の3原則のもと 成年後見制度の普及・啓発、市民後見人の養成、成年後見制度に関する相談、成年後見制度に関する受任活動を行っています

《問合せ先》 NPO 法人 東葛市民後見人の会 松戸支部 堀井

電話：047-344-1834 メール：tskmatudo25@yahoo.co.jp

ゆいの花音楽事業	団体名	松戸ウィンドアンサンブル
----------	-----	--------------

【事業内容】

平成24年度事業の取り組み

事業費	38,707円
自己資金	12,871円
助成金	25,836円

■各種合奏練習会や演奏会を通じて、子供から高齢者まで多くの市民に「地域住民が気軽に触れ合える」場所・空間の提供が実現できました。

■演奏会では演奏会参加者（観客の皆さん）が当楽団の団員とともに楽器（簡易マラカス）を工作し、その楽器を使って一緒に音楽を奏でてもらいました。また大型の歌詞ボードを用意し、演奏にあわせて演奏会参加者に合唱してもらいました。

■それらの「音楽の力」をテコとした交流によって、より多くの市民の方に「地域とのつながり、人と人とのつながり」を感じ取っていただけたものと自己評価しています。

平成24年度事業の成果

■上記の通り、各種合奏練習会や演奏会を通じて、子供から高齢者まで多くの市民に「地域住民が気軽に触れ合える」場所・空間の提供が実現できたことから、事業目的は概ね達成できたものと自己評価しております。

■しかしながら、本事業の「草の根的な拡散」を主眼とし、スポット的な演奏会活動を本事業の取組の柱としていることから、各演奏会の参加者とのコミュニケーションもスポット的なものに留まっております。故にコミュニケーションの「深度」という点では、まだまだ改善の余地があるものと考えております。

■ついては、各種演奏会のスポット開催を通じた事業の拡散によって引き続きコミュニケーションの「量」の拡大を図るとともに、一方ではコミュニケーションの「質」を深めることを主眼に、演奏会の定例開催等によって参加者のリピーター化を図り、コミュニケーションを継続的なものに深化させることも検討したいと考えております。

■また「質」を深めるための策として、各コミュニティの特性にあわせた活動の展開も検討して参ります。具体的には、高齢者・子育て世代・児童といった各世代にあわせて演奏会活動の内容をアレンジすること、また老人会・育児サークル・子供会といった各種コミュニティとのジョイントも検討して参ります。

【事業者紹介】

当楽団は松戸市の社会教育団体として、「人と人とのつながりを目的とした上で音楽を愉しもう！」と2009年8月に設立しました。

この楽団は音楽をするための技術力に重きを置くのではなく、人と人とのつながりを大切にしたい音楽をみんなで一緒に楽しんでいます。ショッピングモールや市の行事に参加することで、社会貢献をするとともに、個々の居場所がきちんと存在する楽団を目指しています。

《問合せ先》

◆松戸ウィンドアンサンブル◆

団員数：35名（平成25年3月現在）

代表：駒木健二 電話：080-3511-5364

難聴者にやさしいまちを つくろう事業	団体名	NPO 法人 ユニバーサル・サウンドデザイン
--------------------------------------	------------	-----------------------------------

【事業内容】

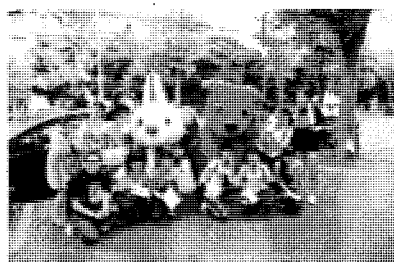
平成24年度事業の取り組み

事業費	185,000 円
自己資金	85,000 円
助成金	100,000 円

「人はだれでも耳が聴こえにくくなる可能性がある」という事実と「聴こえることは素晴らしい」ことを健聴者のみなさんにご理解いただく活動を行いました。

また「FAX 番号があると安心だね 大作戦！」を常盤平商店街および五香商店街にて展開し難聴の方がお店に問い合わせる際に電話ではなく FAX やメールで問い合わせできるようにチラシやパンフレットに FAX 番号とメールアドレスの記載を松戸市の 15 名の中学生のボランティアに協力いただき展開いたしました。

また「聴こえることのすばらしさ」や「小児難聴やヘッドフォンによる騒音性難聴の注意喚起」を目的とした「親と子のすくすく演奏会」を松戸子育てフェスティバルのプログラムとして展開しました。



平成24年度事業の成果

① FAX 番号があると安心だね 大作戦

常盤平および五香商店街のご協力を得て、約 50 店舗様に難聴の方が電話番号では問い合わせができないことについてご理解をいただき「次のチラシから入れさせていただきます」などのご回答をいただくことができました。

② 親と子のすくすく演奏会

松戸市子育てフェスティバルでのプログラムでの実施となったことで、約 150 名の方に「聴こえることのすばらしさ」「小児難聴や騒音性難聴の注意喚起」ができました。

【事業者紹介】

わたしたちは 聴こえの理解と聴こえ支援技術の研究を通し「聞こえることのすばらしさ」や「聴こえにくい人への思いやり」を伝えていく活動をしています。

2013 年 4 月 12 日 NHK ニュース「おはよう日本」で、当団体の聴こえ支援技術による中学校での難聴生徒への教育支援への効果が放映され、おかげさまで全国レベルで認知される松戸の NPO となっています。

《問合せ先》

NPO 法人ユニバーサル・サウンドデザイン

電話：047-729-3064 メール：info@u-s-d.jp

ホームページ：http://u-s-d.jp 担当：中石

総合科学教室事業	団体名	エデンの園科学教室
----------	-----	-----------

【事業内容】

平成24年度事業の取り組み

子供対象の科学工作教室の開催を通じて科学に対する理解と興味を深めてもらう事、合わせて地域の子供と大人の世代間交流を図ることを目的とする。

○超高齢化社会を迎え、高齢者にも住みやすい町づくりが求められていますが、それは若年層も一緒に当該地域に住んでいることが前提であり、世代を超えた交流があってこそ本当に生きた町だと言えると思う。

○当団体のある松戸ニッセイエデンの園には、科学ボランティアの経験者や科学者が多数居住しており、子供達に科学を教えることができる。当団体はこれを通じ、上記2つの地域課題 ①子供に科学に興味を持ってもらう ②世代間のコミュニケーションの創出の解決に貢献したいと思っている。

事業費	189,838 円
自己資金	89,838 円
助成金	100,000 円



平成24年度事業の成果

- ①科学教室開催回数：年10回については9回開催したほか、所属する有料老人ホームの文化祭にブースとして出展し、地域の方々にも宣伝することができた。
- ②児童参加者数：延べ200名以上の参加については、約180名にとどまっている。保護者等の参加者を含めると270名程度となるものの、次年度への課題としたい。
- ③「科学が好き」または「苦手ではなくなった」と参加者の7割の方にアンケートに記載していただくことを目標とした。参加者の内訳は、未就学20%・小学生60%中学生20%であった。男子の参加が多い回もあったが、90%の参加者から「楽しかった」、70%の参加者から「わかりやすかった」と回答いただけた。参加をきっかけに科学がごく身近にあることを理解していただけたと感じている。

平成25年度の目標

現在の教室開催数については適正と考えているが、さらに近隣の小学校や幼稚園へ出前教室ができないかと模索している。従来から続けている、近隣子供会と連携した出張教室は好評を博しており、小学校等であればより学際的な内容を提供できるのではないかと考えている。

【事業者紹介】

子供対象の科学工作教室の開催を通じて科学に対する理解と興味を深めてもらう事、合わせて地域の子供と大人の世代間交流を図ることを目的とした団体です。現在松戸ニッセイエデンの園（松戸市高塚新田）入居者12名を中心に活動しています。

《問合せ先》

エデンの園科学教室

松戸市高塚新田123-1

代表 山本 喬

メール：sanponkyo@nifty.com

「楽しい健康体操Ⅲ」 推進活動事業	協働事業者	特定非営利活動法人 人材パワーアップセンター
	事業担当課	健康推進課 (事業実施時 保健福祉課)

【事業内容】

平成24年度事業の取り組み

「楽しい健康体操いつでも・どこでも・だれでも」普及にチャレンジ

① 取り組んだ課題と事業

高齢者が生き生きと自立して過ごせるよう、自宅近くで楽しい健康体操が出来る「場」を松戸市内に（町内会館を含め）開設（24年度5か所設置）します。

そのため、高齢者運動指導員と「場」の教室運営に当たるマネージャー育成を進め、養成講座・実技研修を実施。

② 楽しい健康体操の対象者は、おおむね65歳以上の方です。

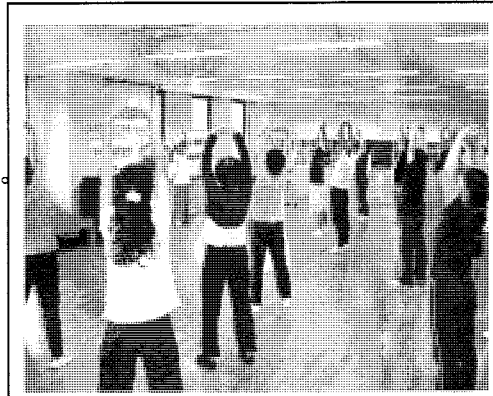
③ 事業は、NPO法人人材パワーアップセンターと松戸市保健福祉課との協働事業で推進します。

④ 事業内容

- 高齢者運動指導員育成 ○推進マネージャー養成
- 提供する「場」の普及推進・質の向上

「いつでも・どこでも・だれでも」継続して体操が出来る環境を整えることで、多くの方の健康を維持し、福祉予算抑制に寄与すると共に、地域活性化に貢献することを目指しました。

事業費	987,418 円
自己資金	487,418 円
(労力換算額： 845,000 円)	
負担金	500,000 円



平成24年度事業の成果

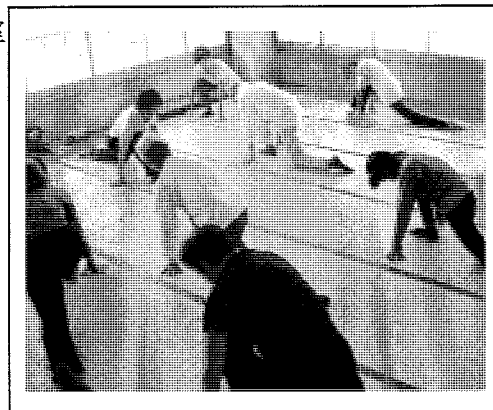
[五香・小金原三・東部 SP・秋山団地・矢切・で教室開始できました!]

- ① 運動教室5教室の開設(内、町会会館4か所)合計15教室
- ② 高齢者運動指導員・マネージャー11名の育成
- ③ 新設会場への延参加人数1350名
- ④ アンケートの実施による効果測定

アンケート実施で、高齢者が楽しく安心して集まれる「場」おしゃべりができる「居場所」「仲間作りの場」「生きがい発見の場」への展望が年々高まっています。

これからも利用者に対する謙虚な心を忘れず、スタッフ間の和とレベルアップを目指していくことを確認しています。

「いつでも・どこでも・だれでも」松戸市内で健康体操が出来ることが私達の思いです。



【協働事業者紹介】

特定非営利活動法人 人材パワーアップセンターの活動理念は

「地域の人たちの思いや夢の実現を支援し・実践し、生きがいの発見と地域の活性化を図る」ことです。

この基本理念に基づきNPO法人人材パワーアップセンター内の、各チームがそれぞれ「受益者視点に立ちそのニーズと深く合致する社会サービスを単純明快でシンプルなコンセプトで提供」する活動をしてきました。自分も周りの人も楽しくなる社会サービスモットーは「わくわくいきいきたのしくね!」です。

詳しくはホームページ www.npo-jpuc.jp をご覧ください。

《問合せ先》 NPO法人人材パワーアップセンター 松山三郎 047-369-5737

協働事業

世代間交流の場・トキ塾	協働事業者	常盤平地域活性隊
	事業担当課	常盤平支所

【事業内容】

平成24年度事業の取り組み

常盤平地域活性隊では、地域住民交流の場として、平成19年3月以来、音楽とアートを中心に各種イベント「トキサイ」を開催してきておりますが、「トキサイ」の一事業として、住民参加型の学習塾「トキ塾」を立ち上げ、地域活性化をより一層推進することいたします。世代間の交流も含め、できるだけ多くの住民が、いつでも好きな時に気楽に参加でき、講師と参加者および参加者同士が、学びながら双方向的にコミュニケーションをはかれる機会と場所を提供したいとの思いから、本事業を提案いたしました。「トキ塾」の参加型学習を通じて、地元町内会、自治会、地域団体及び行政と、交流の場をさらに広げていき、住民同士が、必要な時に、いつでも、誰とでも、気軽に声を掛け合える、笑顔で挨拶ができる、そんなコミュニケーションのとれる風通しの良い地域づくりの一助になるような活動を目指します。

事業費	181,000円
自己資金	36,000円
(労力換算額)	212,000円)
負担金	145,000円



平成25年1月 トキ塾



平成24年度事業の成果

世代間交流の場・トキ塾を3年間開催してきて、常盤平団地自治会と連携して、音楽の講座を開催し、50名を超える参加者を記録するなど大きな成果を上げ、常盤平団地等地域活性化検討協議会や常盤平アートラインプロジェクト2012の活動につながるなど、地域の活性化につながる活動へと発展する幾つもの目的を達成できました。

【協働事業者紹介】

常盤平地域活性隊は常盤平地域を活性化するのが目的のボランティアグループ。

常盤平団地は日本の高度成長期時代を支えた緑あふれる街でもあり、50年前に設計されたとは思えない緑多いすばらしい環境を備えた常盤平団地の中心部分にある商店街広場を利用しイベント（トキサイ）の開催を通じて地域の活性化を行うのが本団体の重要な事業です。トキサイとは常盤平祭からとった名称で商店街広場を中心として音楽やパフォーマンス、アート展示、街歩き等を実施するイベント名です。

《問合せ先》 常盤平地域活性隊

隊長 榎本 孝芳 電話：090-8946-9554

ホームページ：<http://www.tokiwadaira.org/index.html>

パパ手帳を使った男性への 育児支援事業	協働事業者	特定非営利活動法人子育て支援ぽこら
	事業担当課	男女共同参画課 (事業実施時 女性センター)

【事業内容】

平成24年度事業の取り組み

協働事業3年目となり、手帳作成、男性への育児支援を今後どのように展開していくのか、を考えながら活動した。

イクメンという言葉が浸透してきた今、男性が育児にかかわることは、当たり前の風景となってきた。

この数年松戸市の育児をする環境は3年前よりも恵まれたものになってきている。

育児をするというエンドレスな生活の作業は、まだ母親はもちろんのこと、父親も悩ませている状況に変化はないようにみえる。

私たちはこの育児に悩み多い男性たちの助けとなるように活動を行ってきた。

忙しい父親が子どもとの思い出をつづるパパ手帳の情報をツールとして意識啓発を行い、また父親同士顔の見える関係を作ることができる講座を開催した。

女性センターとの協働でイクメン講座に取り組んだほか講座に先立ちプレイクメン講座も開催した。

また、イクメン講座参加者による写真展をゆうまつどフェスタで開催することができた。

子育てフェスティバルでは、来場者に手帳を配布。保健センターでも配布することができた。



平成24年度事業の成果

手帳の改定版を2千部印刷した。女性センター、子育て支援施設、保健センター、市内で活動する、他団体、などに配布することができた。

イクメン講座をプレも含めて3回行った。

高校生と赤ちゃんのふれあい体験授業では、高校生が手帳を見て活用した。1学年全クラス部数を多く印刷できたことにより、父親だけでなく、さまざまな年齢の男性に配布することができた。

【協働事業者紹介】NPO法人子育て支援ぽこら（松戸市男女共同参画推進グループ）

- ・ おやこDE広場ゆうまつど・おやこDE広場南花島（松戸市委託事業）
- ・ 子育てコーディネーターによる相談（広場開催時）
- ・ 親子で参加できるイベント、講座の企画実施
- ・ 市内の子育て関係イベントへの参加
- ・ ボランティアへの活動の場の提供

乳幼児とその保護者、支援する者が集いお互いに助け合い成長できるように日々活動しています。

《問合せ先》ホームページ <http://www.geocities.jp/pocora616/>

メール pocora060620@yahoo.co.jp

担当 野村

ゲット ユア ドリーム事業	協働事業者	特定非営利活動法人 子どもの環境を守る会 J ワールド
	事業担当課	子育て支援課

【事業内容】

平成 24 年度事業の取り組み

対象：松戸市内在学・在住中高生

目的：自分の将来について積極的・前向きな若者が増える。

方法：様々な職業や経歴を持った大人との交流の場を持つ。

《具体的な活動》

6 月・10 月にワークショップを開催した。

普段は交流することのない他校生と一緒に、実際に現場で働いている方から仕事紹介や、どうしてその仕事を選んだのか、困難にぶつかったことややりがいを感じた事など話を聞き、体験をした。

夢をつかむために必要なことなどを語り合い、発表する。

事業費	328,994 円
自己資金	55,994 円
(労力換算額)	236,250 円
負担金	273,000 円



平成 24 年度事業の成果

- ① 参加した中高生（6 月は 22 名、10 月は 31 名）にとって、自分の将来を考えるきっかけとなった。
- ② 10 月のワークショップでは東部地区の中学・高校の協力を得て、県立向陽高校体育館で開催することができ、東部地区の中高生 15 名を含め、参加者が 31 名に増えた。
- ③ 継続参加者のうち 6 名が「グループリーダー」として参加し、良いリーダーシップを発揮した。
- ④ 23 年度参加した 2 名が、高校卒業後「学生スタッフ」として参加した。
- ⑤ 24 年度は、新たに 12 名の方に講師として参加していただいた。（23 年度は 9 名）

平成 25 年度の目標

- ① ワorkshopに参加した中高生が様々な講師の人生観を直接聞く事で自ら考える機会となり、「将来について考えるきっかけになった」「あきらめないことが大事」「仕事の裏話も聞けた」「生きていく上で何をすればいいのかわかった」などの感想を得た。さらにこの様な体験をする中高生を増やしていく。
- ② 年間 3 回ワークショップを行う。公募と共に協力校と連携し、自ら参加申し込みが難しい生徒の参加も募る。
- ③ 継続参加を募り、企画から参加し主体性を促す機会を作る。

【協働事業者紹介】

* 子育て支援、居場所づくり：乳幼児期から思春期までの子育て中の親と子どもの支援、子どもが安心して成長できる健全な環境・居場所づくりを目指している。

・「ユーススペース」…中高生が自由に過ごせるフリースペース。平日夕方になると中高生が「ただいまー」と集まってくる。宿題や将棋、楽器の練習など、自由に過ごしている。彼らの話にゆっくり耳を傾け、いろいろな相談にも乗っている。夏には、「里山草刈り応援隊」として自然体験も実施している。

・「J キッズ」…ボランティア活動を通して、子ども達の思いやりと自主性を育てる。

・「おやこ DE 広場旭町」…主に 0 歳から 3 歳を対象にした親子の遊び場（松戸市委託事業）

《問合せ先》 特定非営利活動法人 子どもの環境を守る会 J ワールド

住所：松戸市新松戸 4-257-1 ニューホームズ 第一マンション 1 階

ホームページ：<http://www.kosodate-hiroba.com> メール：j_loveties@yahoo.co.jp

電話：047-344-0544（SRC ビル内） 担当 松本

協働事業

昔のあそびとわらべうたⅡ事業	協働事業者	昔のあそびと遊ぼう会
	事業担当課	六実支所

【事業内容】

平成24年度事業の取り組み

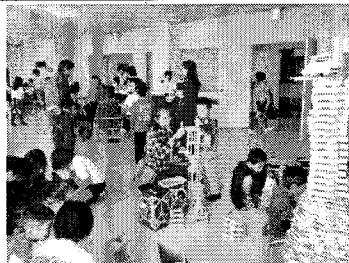
核家族化により、「昔の遊び」を伝えられることがなくなり、親子孫間の世代で一緒にコミュニケーションすることが少なくなり、継承して一緒に楽しめる「昔あそび・わらべうたあそび」を広めることにより親子孫で共通の話題を提供でき、地域の活性化に寄与したいです。

昨年度は地域のイベント（桜祭り、六実っ子まつり、献灯まつり）に参加し多くの親子（約600人）と一緒に楽しむことができました。又協働事業として講習会を4回開催し、昔あそび大会や地域の盛り上げるイベントを六実地域開催することができました（サテライト見本市六実）又社会福祉協議会が中心となって地域のボランティア団体との交流会が初めて催されるなど地域の方々の輪が広がってきています。

事業費	265,251円
自己資金	84,290円
（労力換算額）	459,700円
負担金	180,331円



（桜祭り風景4月7日）



（六実っ子まつり風景10月28日）



（献灯まつり風景8月9日）

平成24年度事業の成果

六実桜まつりでは、好天にも恵まれ、桜満開の中2日間で300人が遊びに参加して親子で一緒に昔の遊びを楽しんでいました。又六実っ子祭りでは中学生が手伝ってくれ、300名以上の集客を集めることができました。講習会では1回あたり40名強の方々が参加してくれ、4回で174名の人たちと昔あそびを楽しむことができました。

また、サテライト見本市六実を市民活動サポートセンターの協力で開催でき、地域の30団体が参加して開催することができ「昔のあそび」で大いに盛り上げることができました。

平成25年度の目標

単年度で終わらないように前年以上の集客を目指し「昔あそび」人口を増やします。

- ① 講習会1回あたり50名以上の集客
- ② 桜祭り集客100名以上
- ③ 六実っ子まつり集客100名以上

また、平成25年度は他の団体との連携を強化、他の団体との共同催しや他団体主催の催しにも時間の許せる範囲で参加し交流を深め地域全体の活性化に寄与したいと思っています。

【協働事業者紹介】

《問合せ先》

昔のあそびと遊ぼう会

会長 白石 彌登美

電話 047-387-1522

毎月第1土曜日13時30分から六実市民センターで活動しています。

家庭用廃食油の回収による 地域活性化事業	協働事業者	松戸エコマネーアウルの会
	事業担当課	環境政策課・商工振興課 (事業実施時 環境計画課・商工観光課)

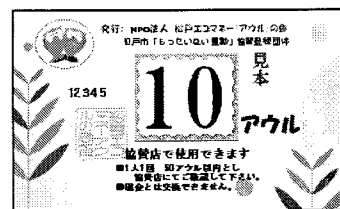
【事業内容】

平成24年度事業の取り組み

23年度に引き続き、協働事業として取り組んだ。単独事業も含めて3年目の活動となり、一般市民にもその活動がだんだんと浸透してきた。その結果家庭用廃食油の回収量、アウル券の配布枚数も倍増した。また協賛店でのアウル券の使用枚数が312枚

(25年1月末)になり地域商店の活性化の端緒になってきた。また回収された家庭用廃食油によるBDFを利用した松戸市のゴミ回収車の稼働は多くのマスコミにも紹介され、注目を浴びた。今まで空白地帯であった、新松戸地区に2ヶ所の回収拠点が確保でき、また町会での取り組みの第一歩として常盤平西窪町の「テクノハウス久我」がスタート出来た。

事業費	292,863円
自己資金	57,280円
(労力換算額)	187,500円)
負担金	235,583円



平成24年度事業の成果

- ① 庭用廃食油回収拠点 14店舗 (4拠点新規 2拠点閉鎖)
- ② アウル券が使用できる協賛店 41店舗 (3店舗増加)
- ③ 24年度回収実績 (24年4月～25年2月) 1261L アウル券配布枚数 1369枚
- ④ 「アウル」券の協賛店での使用枚数 312枚 (25年1月末)
- ⑤ 駅前清掃、スクールガードへのアウル券の配布 780枚
- ⑥ 広報まつどによる活動紹介 3回 (24/6/15、24/10/15、25/3/15)
- ⑦ 商工観光課による商店会向け資料にも事業内容の掲載。

平成25年度の目標

- ① 協働事業最終年度として家庭用廃食油の回収事業の松戸市全域への展開
- ② 地域通貨「アウル」の拡大として 家庭用廃食油回収のほかに、環境ボランティア、防犯パトロール スクールガード、等に配布の輪を拡大。
- ③ 新規会員の募集 (人材の若返り、事業の継続)
- ④ 松戸市内の企業の協力要請 (活動資金の確保)

【協働事業者紹介】

平成15年1月からスタートし、16年6月にNPO法人格を取得しました。会員相互に「ありがとう、いったり来たり」を合言葉に会員相互のサービスのやりとりを行っています。平成16年には千葉県の受託事業として五香西口「サンロード商店街」をモデルに商店街活性化事業を実施。

平成21年7月より家庭用廃食油の回収事業を実施中。

会員数 40名

問合せ先 松戸エコマネーアウルの会 事務局 電話・FAX: 047-368-0980

住所 松戸市稔台7-7-13 (株)ダイエックス内

メール: matsudoowl@s3.dion.ne.jp

ホームページ: <http://homepage2.nifty.com/matsudo-owl/>

事務局長 川本佳行 メール dzv00072@nifty.com

平成25年10月

発行

松戸市 市民部 市民自治課

〒271-8588 松戸市根本387-5

TEL 047-366-7062

FAX 047-704-4009

E-mail mcshiminjichi@city.matsudo.chiba.jp